

□6月2日説教(短縮版)「神の国と新しい命」
ヨハネによる福音書3:1～15 隅野徹牧師

5節の「だれでも水と霊とによって生まれなければ、神の国に入ることができない」という言葉は、キリスト教の教えの根幹ともいえる大切な教えの言葉です。聖書で水は、神によって罪がきよめられる象徴として用いられます。エルサレムのお祭り見学にきていた人々(ヨハネ7:37以下)、またサマリアの女に対して、イエスが与えることを約束された「生ける水」が(ヨハネ4:10)、まさにここでいわれる生まれ変わるために必要な水なのです。そして「霊」とは神・キリストの力の象徴であり、実際に神・キリストのみどころが行われるために働く「力」なのです。

ですから5節の水と御霊によって生まれ変わるとは、私たちの罪にまみれた心が神によってきよめられ、そこに神・キリストの霊である聖霊が新しく宿って下さり、新しい霊的な命を生きる者に変えられることです。それが神の国に入るためには必要不可欠なのです。

ニコデモはルカ18章の金持ちの議員と似ていますが、違っていることもありました。それは自分の生き方は正しく、欠けているものは何もないとは思わなかった、ということです。彼はどこか自分の生き方に疑問を感じ、生き方を変える必要を感じていました。だからこそ、救い主ではないか、自分を変えてくれる存在ではないかと感じたイエスを夜こっそりと訪ねて、教えを乞おうとしたのです。

ここからは聖書には書かれていない私の想像ですが、ニコデモはイエスによって神の国に入ることができたのではないのでしょうか。今日の箇所ではすぐに自分の罪を認めてイエスを救い主と信じ、霊と水によって新しく生まれることができなかったニコデモです。しかし今日の箇所の場面がキッカケとなって、イエスを慕い続け、十字架の死と復活を目撃した後で、新生する日が来たのではないかと思うのです。神が新たな命を授け、生まれ変わらせてくださることをすぐには信じ受け入れられない。年を取ったものがどうして生まれることができましようかと疑ってしまう。自分のプライドや行いによって何かを得ようとする…。そういうものでもイエス・キリストは、霊と水によって生まれ変わり、神の国に入りなさいと招き続けてくださるのです。
(終)